

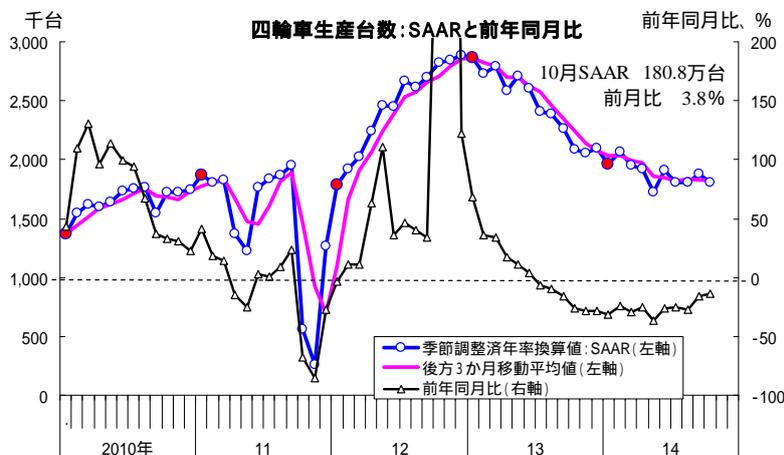
タイ自動車市場の月次統計（2014年10月）

持ち直しの兆候が見られる地方部でのピックアップトラックの販売動向に注目

輸出減速により生産調整が行われた

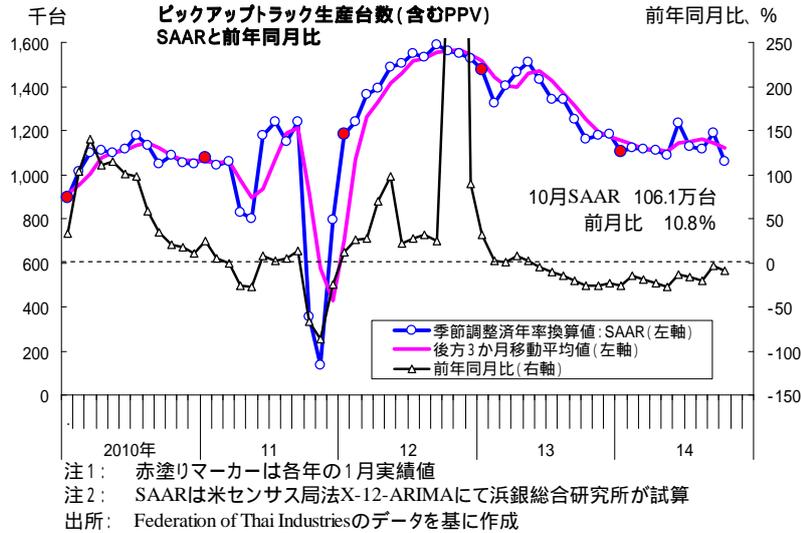
- 10月の四輪車生産台数は前年同月比13.7%減の16.0万台と16か月連続で前年を下回った。季節調整済み年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)も前月比3.8%減の180.8万台と、3か月ぶりに増加した前月から再び減少に転じた(図表1)。前月のレポートで警戒していたように、輸出が7月以降急減速していたため、在庫が積み上がるのを回避すべく完成車メーカーは生産のアクセルとブレーキを慎重に操作している状況である。
- 生産の内訳をみると、構成比が最も高いピックアップトラック(含むPPV:ピックアップトラックベースのSUV)の台数は前月比10.8%減の106.1万台となり、3か月ぶりに前月比で増加した9月から大きく減少した(図表2)。国内需要が底ばいで推移する中、輸出需要が7月以降に急減速していたため、生産調整をしたメーカーがあったと考えられる。
- 一方で、乗用車の生産台数は前月比3.9%増の72.7万台と3か月連続で増加した(図表3)。後述するが、ここ数か月の統計を見ると販売に底入れ感が出てきており、長らく減産を続けてきた乗用車生産においては、ようやく在庫調整局面を脱した可能性が高い。
- そして、残る中大型トラック及びバスの生産台数のSAARは前月比28.9%増の2.8万台と大幅に増加した(図表4)。販売には依然として反発力は見られないが、タイ投資委員会(BOI)による大規模投資案件の審査が6月に再開されたことで民間設備投資が回復し、建築許可面積も9月に大幅に増加するなど、トラック需要に対して追い風が吹き始めている。加えて、タイ政府は10月1日、公共施設の建設やインフラ整備を含む景気刺激策を発表しており、この点が今後のトラック需要の回復を後押ししよう。実際、大手完成車メーカーは足元の受注に回復の兆しが見え始めているとコメントしており、受注の増加に合わせて在庫の積み増しを行っていると思われる。

図表1 四輪車の生産は前月比で再び減少

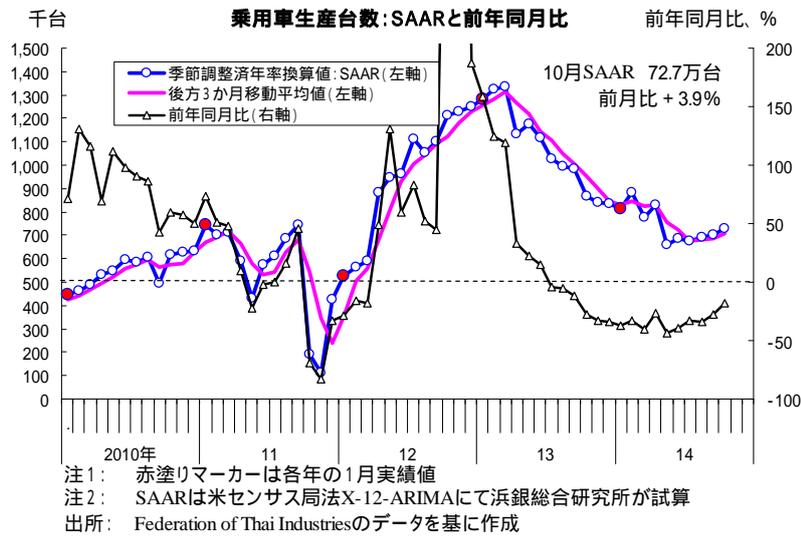


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

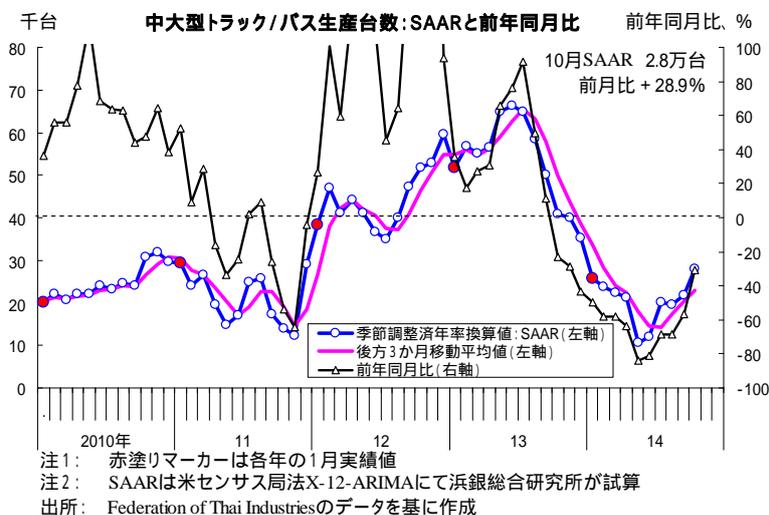
図表2 ピックアップトラックは10月に生産調整



図表3 乗用車生産は3か月連続の増加



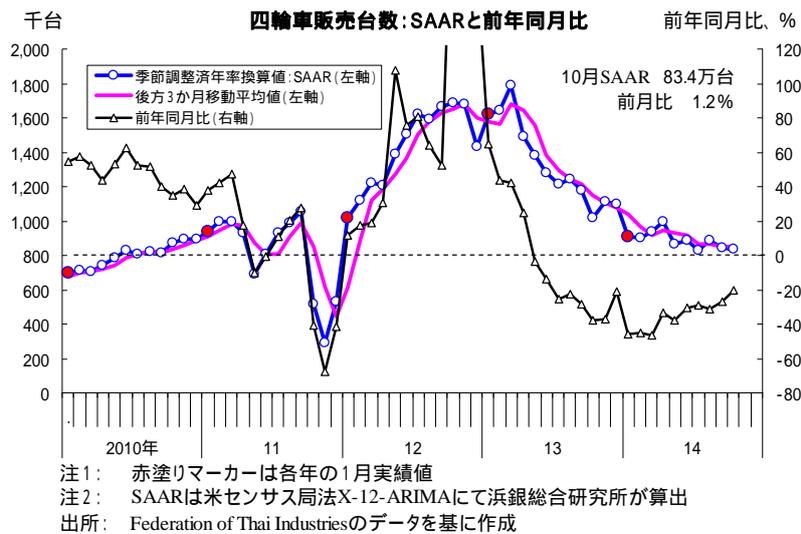
図表4 中大型トラック/バスは在庫積み上げ局面に



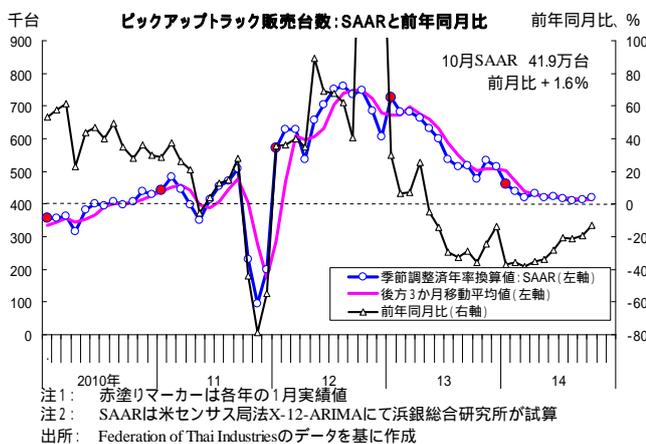
国内需要は底ばい推移が続いている

- 国内販売に目を向けると、10月のタイ国内の四輪車販売台数は前年同月比20.4%減の7.1万台と18か月連続の前年割れとなった。2012年12月にタイ政府による「自動車購入支援策」が終了して以降、需要の反動減が続いており、タイ国内の全体需要はいまだ低迷から脱していない。10月のSAARは前月比1.2%減の83.4万台と2か月連続の減少となったが、後方3か月移動平均値でみると底ばい推移が続いている（図表5）。四輪車需要は一進一退の状況が続いている。
- 販売の内訳をみると、ピックアップトラックの販売台数のSAARは前月比1.6%増の41.9万台と2か月連続で増加し（図表6）、乗用車販売のSAARは前月比3.2%増の36.6万台と2か月ぶりに増加に転じた（図表7）。乗用車とピックアップトラックの販売に底入れ感が出てきた。一方で、中大型トラック/バスのSAARは前月比5.2%減の7.9万台と2か月連続で減少した（図表8）。もっとも、前述のようなBOIの対応をきっかけにして、建築許可面積の3か月後方移動平均値が9月に反転増加するなど設備投資に回復の兆しが現れ始めており（図表9）、今後、中大型トラック/バスの販売が順調に盛り返すかどうか注目したい。

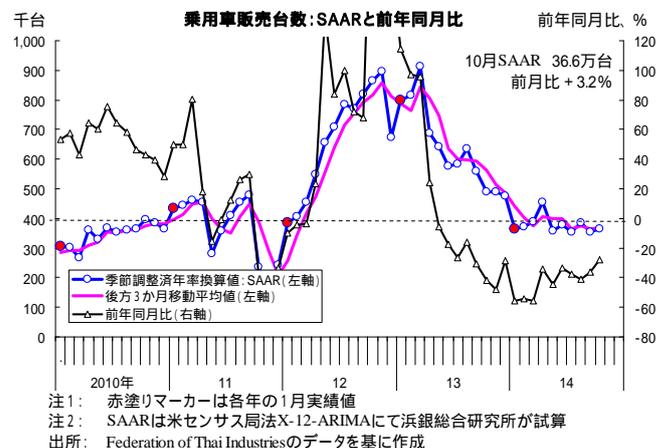
図表5 国内需要は底ばい推移が継続



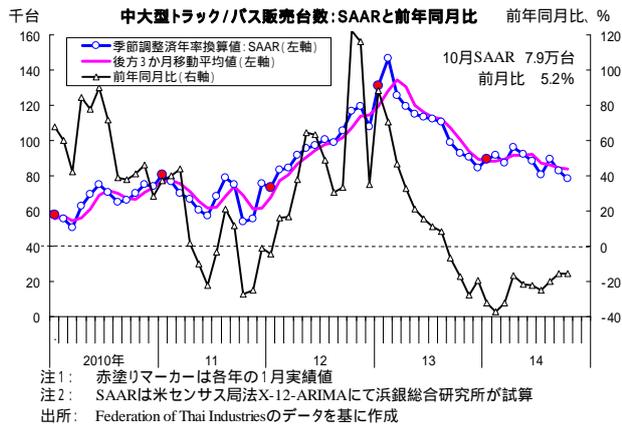
図表6 ピックアップトラックは2か月連続で増加



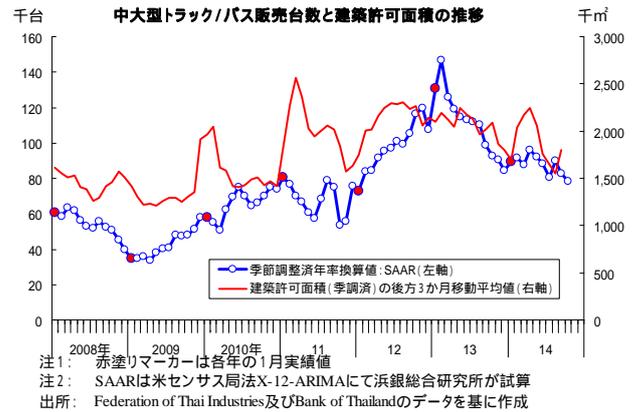
図表7 乗用車販売は2か月ぶりに増加



図表8 中大型トラック/バスは2か月連続で減少



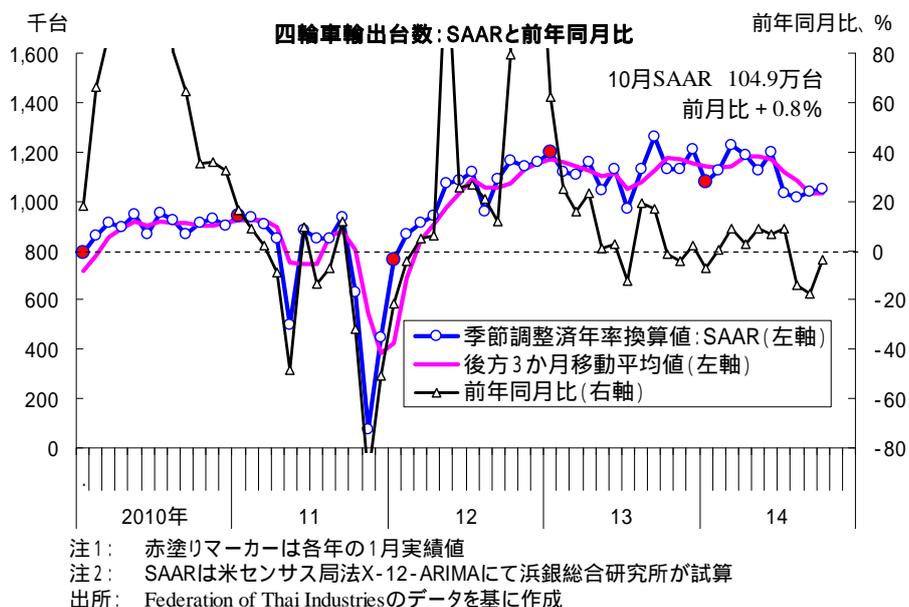
図表9 建築許可面積は増加



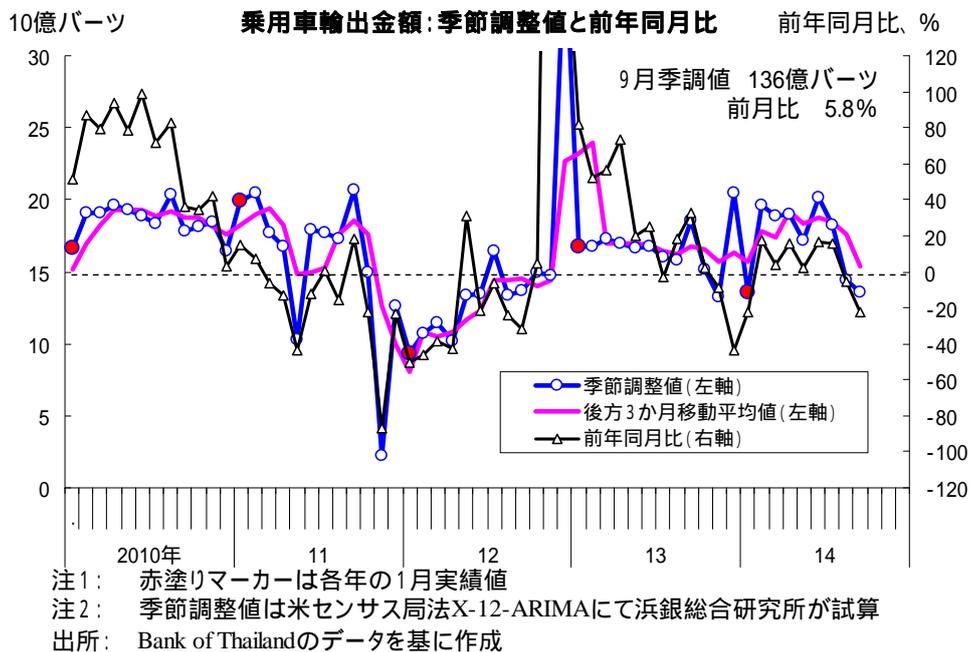
急減速していた輸出需要は緩やかに回復

- タイ工業連盟 (Federation of Thai Industries) の公表数値によると、四輪車全体の10月の輸出台数は前月比で0.8%増の104.9万台となった(図表10)。後方3か月移動平均値が示すトレンドでみると、5月から始まった減速基調は9月に収束し、10月に緩やかながら反転増加した。
- そこで、タイ中央銀行 (Bank of Thailand) が10月31日に公表した9月の貿易統計をみると、乗用車と商用車の輸出金額(季調値)が共に3か月連続で減少している(図表11、図表12)。しかし、タイ工業連盟の10月輸出台数実績を見る限り、今月末発表される10月の貿易統計では、輸出金額が9月実績から大きく減少するとは考え難い。注目したいのは、ピックアップトラックを含む商用車の輸出金額である。大手完成車メーカーがタイで生産開始した新型世界戦略車の輸出対象地域が拡大することで、タイ周辺国への輸出減退を吸収することが期待される。タイ自動車生産で最大規模を誇るピックアップトラックの輸出が盛り返すことが、同国での自動車生産の回復の鍵を握っており、日系関連企業のタイ現地法人における2015年の収益拡大を左右するからである。

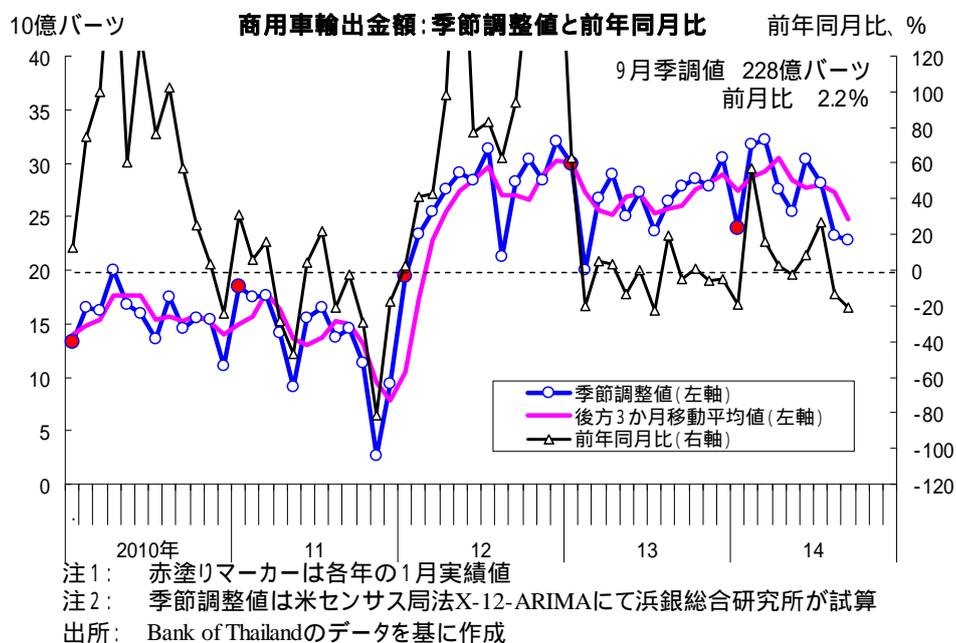
図表10 四輪車輸出が緩やかに回復



図表 11 乗用車輸出金額は9月まで3か月連続の減少



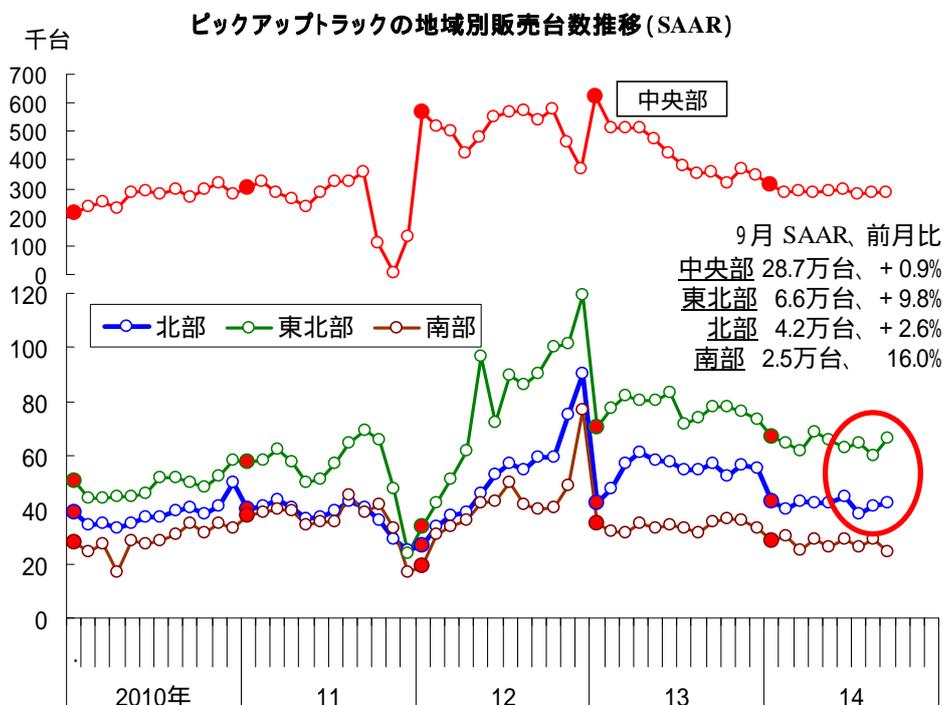
図表 12 ピックアップトラックの輸出金額も減少継続



持ち直しの兆候が見られる地方部でのピックアップトラックの需要動向に注目

- ピックアップトラックについては、輸出動向に加え、同国地方部の販売の動きに変化が現れ始めている点も注目される。前述の通り、ピックアップトラックの国内販売は 2014 年に入ってから底ばいで推移しているが、第 1 次産業構成比の高い地方部では足元で需要が持ち直しの兆しを見せている。
- タイ中央銀行は、タイの乗用車及びピックアップトラックの地域別月次販売台数を開示している（図表 13）。主要 4 地域区分（図表 14 及び 15 を参照）の内、中央部以外では地域別販売構成比が比較的高い東北部と北部にて、9 月の販売台数の SAAR が前月比で増加した。とりわけ、北部での販売は 2 か月連続の増加となっている。9 月の全国販売の増加（ページ 3 参照）はこの 2 地域が牽引役となったことがわかる。
- もっとも、9 月におけるこれら 2 地域での販売増加をもって、地方部での需要の本格回復と判断するのは時期尚早であろう。なぜなら、地方部におけるピックアップトラックの需要はコメ農家を中心とした第 1 次産業従事者によって支えられるが、インラック政権のコメ担保融資制度に端を発する地方農家の過剰債務問題は依然として消費の下押し要因として存在しているためである。
- ただし、タイ政府は 10 月 1 日の閣議で今年第 4 四半期（10～12 月）の景気刺激策の柱のひとつに農家支援策を掲げ、コメ農家 350 万世帯に総額 400 億バーツの補助金を支給することを発表している。前述の公共投資の拡大と併せて、軍事政権が景気刺激策を矢継ぎ早に打ち出しており、地方部におけるピックアップトラックの需要回復の有無を注視していきたい。

図表 13 第 1 次産業従事者の多い東北部と北部のピックアップトラックの販売が増加



注1: 赤いマーカーは各年1月実績値

注2: 季節調整はX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が実施

出所: Bank of Thailandのデータを基に作成

図表 14 タイの地域分類（主要4区分）



出所：浜銀総合研究所が作成

図表 15 タイ主要4地域の概要

地域	中央部	東北部	北部	南部
2014年 ピックアップトラック販売台数 (対全国構成比)	422,594 (71.9%)	77,360 (13.2%)	54,202 (9.2%)	33,959 (5.8%)
第1次産業(農業・林業) 対名目GDP構成比	4.0%	21.2%	25.6%	28.1%
人口(万人)	2,145	2,150	1,177	881
所属県	アーンターン アユタヤ バンコク チャイナート ロブリー ナコーンナーヨック ノンタブリー パトゥムターニー サムットプラカーン サラブリー シンブリー ナコーンパトム サムットサーコーン ラーチャブリー ペッチャブリー ブラチュウップキーリーカン スパンブリー カーンチャナブリー サムットソングクラム チャチュンサオ チャンタブリー チョンブリー ラヨーン ブラーチンブリー サケーオ トラート	アムナートチャルーン ナコーンラーチャシーマー チャイヤブーム ブリーラム スリン シーサケート ヤソートーン ウボンラーチャターニー カーラシン コーンケン ルーイ マハーサーラカム ムックダーハーン ナコーンパノム ノンブワラムブー ノンカーイ ローイエット サコンナコーン ウドンターニー	チェンマイ チェンラーイ ラムパーン ラムブーン メーホンソーン ナーン パヤオ プレー ウタイターニー ピッサヌローク スコータイ ターク カンベンペット ピチット ペッチャブーン ナコーンサワン ウッタラディット	チュムボーン クラビー ナコーンシータンマラート パンガー パッタラン ブーケット ラノーン スラートターニー トラン サトゥーン ソングラー ヤラー ナラーティワート パッタニー

出所：タイ国家経済社会開発庁(NESDB)統計を基に浜銀総合研究所が作成

担当：調査部 産業調査室 深尾三四郎

TEL 045-225-2375

E-mail: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。